

冬ノ九表

のきり／＼すまたよはらぬ聲へこそをとづれ
てたえぬ秋風は尾へお花がすゑに浪へなみを
こしわけ行たもとやゝぬれてしら

露へつゆへはみちしばのはもせばきにや荻へおぎ
の上葉へうはばのしづくかこちがほに匂ひ
をかけたるふぢばかまうつりかいとこちた
くてから衣たびだつ我をまつつま

にもあらぬかさねぬ袖もかこたれぬべし
みちよりすこし分入て経へきやうのこそし